

管楽合奏は楽しい会？

No.41 "五重奏から九重奏曲まで"

2013年10月12日(土)14時開演 深川江戸資料館小劇場

パリー (英/1848~1918) 「九重奏曲 作品70」
(Fl)信澤 (Ob)土屋 (C.Ang)一宮 (Cl)兼氏/景山 (Fg)森川/阿部 (Hn)鈴木/市原

ロゼッティ (捷/1750~1792) 「パルティータ第3番(七重奏)」
(Ob)楠原/一宮 (Cl)田中/五味 (Fg)角山 (Hn)市原/中原

----- Intermission -----

有馬礼子 (日/1933~) 角山木管五重奏のためのイントロダクション
「夏のお地蔵さん」日本初演
(Fl)信澤 (Ob)土屋 (Cl)兼氏 (Fg)角山 (Hn)鈴木

バルトーク (洪/1881~1945) 「純粹木管六重奏の為の8つの小品」
(Ob)一宮/土屋 (Cl)五味/兼氏 (Fg)山田/角山

ラハナー (奥/1803~1890) 「八重奏曲 作品156」
(Fl)岡添 (Ob)楠原 (Cl)景山/田中 (Fg)阿部/山田 (Hn)中原/鈴木

出演者の簡単なプロフィール(楽器別50音順)

(Cond & Fg)森川 一 (もりかわ はじめ)

法政大学在学中ファゴットを始め、菅原眸氏に師事。同校卒業後、東京藝大別科で三田平八郎氏に、その後元ハンブルク州立劇場奏者フリッツ・ヘンカー氏に師事する。フリーの奏者として活動し今日に至る。78年より毎年ソロ及び室内楽の演奏会を主催。その他オケのトレーナー、文筆など多岐に渡る活動を行う。「管楽合奏は楽しい会？」及び「フルスヴァルト合奏団」「森川室内楽」などを主宰、またリード製作者としても高い評価を得ており「森川ファゴット&リード倶楽部」を運営している。ファゴット演奏者倶楽部設立世話人代表及び「法政ファゴットの会」同人

(Fl & Cond)岡添 隆 (おかぞえ たかし)

京都大学音楽部交響楽団でフルート奏者、学生指揮者として活躍する。フルートを佐々木伸浩氏、持田洋氏に、フラウト・トラヴェルソを森本薫氏に師事。現在はアンサンブル・メゾン、東京アマデウス管弦楽団で演奏活動中。普段は某メーカーで化学の技術総括に携わる。「研究のアイデアは音楽で演奏する時のアイデアと共通するものがある」と主張し、部下連にあきられている。指揮もする才人。

(Fl)信澤達也 (のぶさわ たつや)

高一のとき隣席の友人の勧めでフルートを始め、磯辺庄平氏に師事。東京大学音楽部管弦楽団を経て卒業後は東京アマデウス管弦楽団で活動し、2009年より団長を務めている。鉄鋼系化学メーカーで永らく研究職を勤めたが、現在は特許関係の仕事に移った。終日机に向かう仕事なので、運動不足が気になる昨今である。

(Ob)一宮悠子 (いちみや ゆうこ)

中学からオーボエを始める。高校時代には鈴木繁、大学時代より渡辺潤也の各氏に師事。卒業後に地元仙台で就職したのを機に 念願のアマチュアオケに入団。以降もレッスンの度に高崎へ、また声が掛かれば喜んで上京し演奏活動をする日々を送っていたが、2012年の春より埼玉へ移住し週末の音楽活動を楽しんでいる。平日は医療専門職として勤務。

(Ob)楠原千佳子 (くすはら ちかこ)

中学からオーボエを始め、藤原勲氏に師事。東京大学音楽部管弦楽団を経て、現在は東京アマデウス管弦楽団及びアンサンブル・メゾンに所属。大学~大学院を通して、コンクリート相手の研究で手がガラガラした時期もあったが、現在は少し手にやさしい社会人となった。

(Ob)土屋英晃 (つちや ひであき)

東京都出身。14歳よりオーボエを始める。桐朋学園大学音楽学部、同卒業演奏会出演。同大研究科修了。第12回別府アルグリッチ音楽祭、ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン2011にオーケストラメンバーとして出演。2009年、市川市文化振興財団第22回新人演奏家コンクール管楽器部門で優秀賞を受け新人演奏会に出演するなど同財団主催の演奏会に多数出演。コンセール・ヴィヴァン第29回新人オーディション合格し優秀賞を得る。オーボエを藤村理子、宮本文昭、嶋崎耕三、浦丈彦の各氏に、また室内楽を白尾彰、岡本正之の各氏に師事。現在は洗足学園ニューフィルハーモニック管弦楽団及び洗足学園音楽大学演奏補助要員であり、Ensemble Le Creusetメンバー更に市川市文化振興財団フレッシュアーティストバンクに所属。

(Cl)景山賢嗣(かげやま けんじ)

東京大学音楽部管弦楽団を経て、現在は東京アマデウス管弦楽団、ダンゲダーク管弦楽団に所属。これまでにクラリネットを平林邦男、兼氏規雄の両氏に師事。平日は大手情報通信企業にてシステムエンジニアとして勤務している。某コンビニATMの取引中継オンラインシステムを担当

(Cl)兼氏規雄(かねうじ のりお)

東京藝術大学附属高校を経て同大学卒業。ミュンヘン国立音楽大学留学。NHK洋楽オーディション合格。NHK「午後のリサイタル」等に出演。水戸芸術館「公募企画シリーズ」の第1回出演者に選出されリサイタルを開催。08年、東京オペラシティでのリサイタルについて、「音楽の友」誌上で絶賛される。水戸芸術館主催の「茨城の名手・名歌手たち」オーディション審査員、「茨城の演奏家による演奏会企画」選考委員、茨城県の新人演奏会出演オーディション審査員、新人賞選考委員。また、日本クラシック音楽コンクールの全国大会木管楽器部門審査員も務める。現在、上野学園大学音楽学部、茨城大学教育学部、大東文化大学文学部講師、水戸ゾリステン代表。フルスヴァルト合奏団同人

(Cl)五味春夫(ごみ はるお) 初参加!

中学よりクラリネットを始め、新井淑之氏、内山洋氏に師事する傍ら、K・シュミット、R・アイヒラー、K・ライスター、W・ヘアマン各氏のレッスンを受ける。早稲田大学交響楽団在団中に「コンセル・リュネール」(指揮:池辺晋一郎氏)設立。卒業後ヤマハ株式会社入社。浜松響、町田フィル、虎の門響等に所属。2002年掛川市民オーケストラ設立に参画。退職後、ムジカーサにてリサイタル開催。2009年渡独。ハンブルクにてW・ヘアマン氏に師事、2010年帰国。2011年世田谷フィルに入団。2012年成城ホールにて第2回リサイタル開催。現在はNPO掛川市民オーケストラ協合理事、ホルツの会、10日の会、日本ブラームス協会会員。ヤマハ音楽能力検定5級(指導者グレード)、音楽技能検定2級(最高位)

(Cl)田中景子(たなか けいこ)

小学4年でクラリネットを始め、佐々木麻衣子氏に師事。東京大学音楽部管弦楽団に入団し、6年ぶりにクラリネットを再開。平林邦男氏に師事。現在は東京アマデウス管弦楽団に所属。平日に楽器をさわられる大学院生の身分も残すところあと一年。

(Fg)阿部寛一(あべ けんいち)

京都大学交響楽団で活躍する。ファゴットを日名弘見氏に師事。現在は東京アマデウス管弦楽団、アンサンブル・メゾンで演奏活動。令夫人はプロのヴァイオリン奏者、二人の令息はヴァイオリンとチェロを弾き、令嬢は藝大卒の声楽家と言う音楽一家の大黒柱。欧米、アジア各地へ海外出張の多い国際派ビジネスマンでもある。2010年5月の楽しい会?出演後アメリカに赴任し、2012年春に帰国後当会に復帰し、オケ活動も再開する。ファゴット演奏者倶楽部設立世話人

(Fg)角山由美(かくやま よしみ)

法政二高では吹奏楽部、その後法政大学交響楽団で演奏、ジュネスにも出演する。大学卒業と同時に(社)日本音楽著作権協会(JASRAC)で音楽家の権利を護る仕事一筋に勤めてきたが、仕事から退いたのを機にファゴットの基本から取り組んでいきたいと、演奏する事への意欲は益々盛んである。加えてコントラファゴットの名手でもある。「管楽合奏は楽しい会?」ホームページの管理人。ファゴット演奏者倶楽部設立世話人及び「法政ファゴットの会」同人

(Fg)山田祐理(やまだ ゆうり)

法政二高では吹奏楽部、その後法政大学交響楽団、ジュネスでファゴットを演奏する。ファゴットを森川一氏に師事。同大学院工学研究科博士課程を経て博士号取得。現在は法政大学その他で講師を務めている。東京アマデウス管弦楽団で演奏するほか、エキストラとして多くのオケに出演。背にはコントラ、手にはファゴットを持ち東奔西走している。ファゴット演奏者倶楽部設立世話人及び「法政ファゴットの会」同人

(Hn)市原秀紀(いちばら ひでき)

東京大学音楽部管弦楽団で活動し、その間故・伊藤泰世氏に師事。博士課程修了後何度かの転職をするなど紆余曲折を経て現在は電池材料の研究探索をしつつ週末ホルン奏者。脇屋俊介氏に師事しながら東京アマデウス管弦楽団を中心に活動。それ以外にも大編成のホルンアンサンブル"Strudel Hornisten"、木管アンサンブル"Particles"を主宰してみたりしている。

(Hn)鈴木麻紀代(すずき まきよ) 初参加!

東京音楽大学附属高等学校を経て、同大学を卒業。在学中より演奏活動を始め、オーケストラ、室内楽、吹奏楽で演奏するが、クラシックに留まらず、TV番組やCM、歌手のPVなどにも多数出演する。現在はポップスオーケストラSoundTrackersのメンバーとしても多彩な活動している。これまでに阿部雅人、冨成裕一に師事。

(Hn)中原史生(なかはら ふみお)

京都大学交響楽団在籍中にホルンを小山亮氏に師事。大学院在学時に演奏活動から離れるも、就職を機に復帰。現在はアンサンブル・メゾン、茨城交響楽団で活動中。普段は海洋動物学が専門の大学教員をしており、唇の日焼け対策に苦労している。

本日のプログラムにはドイツとフランスの作曲家が入っていません。特に意図した訳ではないのですが、余り有名ではないけれど、皆さんに聞いて戴きたい作品を選んでいる裡にそうなってしまいました。オーケストラで独仏の音楽を避けるのは難しいでしょう。それだけ有名な作曲家が多いのですが、管楽合奏では少々事情が違います。

管楽合奏はいわゆる吹奏楽(ブラスバンド)と混同されますが、まるで違うものです。後者には編曲以外ロマン派以前の曲は存在しません。とは言え、前者で人口に膾炙している曲が多いとは言えません。しかし大作曲家の作品でなくとも、隠れた名曲佳曲がここには存在しています。問題は聞いてもらう機会が少なく、楽譜も余り出版されていない事です。理由を詳しく述べる紙幅はありませんが、間違っているであろう楽譜でも修正しながら舞台上に載せていますので、見逃しがある事も否定出来ません。しかし、多少の間違いはあっても「良い曲」である事が分かれば成功と言えるし演奏する価値もあると考えております。

"管楽合奏は楽しい会?"は文字通り管楽合奏の楽しさを追求しています。またプロとアマが合奏をする事で、その間にあると思われる「最良の演奏」を狙う団体です。つまり「プロの技術で、アマチュアの心」を持った演奏が出来れば、これこそが「フィルハーモニー」だろうと考えるのです。そうした理想にどれだけ近付けるか、その判断は御来場の皆様にお任せ致しますが、最後までお楽しみ戴けたなら仕合わせに存じます。

宜しければ、感想などお聞かせ下さい。メールアドレスは heckelfg@gmail.com です。

今回の演奏会は2014年5月4日(土)14時開演 深川江戸資料館小劇場

